

# 農作体験から学ぶ地域の営み・関西を学ぶ ～田植えから収穫、第6次産業化、流通までの 総合マネジメントと地域協働～

大学や教室の垣根を越え、座学では学ぶことのできない経験（農作業）を通じ、地域社会の営みのしくみを留学生とともに学んでいます。



田植え・野菜の栽培の様子

## 活動の概要

目的	大学と社会のかけはしを築くために、地域社会の米作農家と連携し、田植えから収穫までの農作業体験を通して、信頼関係の構築や地域社会の営みについて学ぶ
連携メンバーおよび役割	向井比呂志氏（高槻市土室の農家）…田畑の賃借と農業指導 授業科目「農作体験から学ぶ地域の営み」・「関西を学ぶ」履修生（一部、本学留学生を含む） …無農薬自然栽培による農作物の栽培を学ぶ。農業（草取り、田植え、収穫等）、病害虫などのリスクマネジメント、収穫した作物のコンセプトメイキング・プロダクトデザイン、ブランディング・市場調査・流通など 関西大学教育推進部教授 山本敏幸 他…プロジェクト進捗状況の管理、学生に対するアドバイス 関西大学学長室シニア研究企画アドバイザー 角谷賢二…連携先のコーディネート
活動地域	大阪府高槻市土室（はむろ）地域
活動期間	2014年4月～2016年3月（「大学と地域社会のかけはし」、「食のアントレプレナー」にて継続中）

## 連携の経緯

2012年より2年間、学生による提案科目「みずから育てる関大ブランド」でジャガイモやトマトを育て収穫。キャンパス内、関大前商店街のレストランと共同で商品化まで行った。2014年度は、学生から授業継続の希望を受け、さらに充実した内容に発展させるため、角谷の紹介で高槻市に田畑を借り、地域連携による協働型モデルの授業を実施することとなった。教室での授業の枠を超えた主体的学びを涵養するアクティブ・ラーニングとチームによる課題発見・課題解決型の学び(ICT活用)の実践を行っている。今年度はビクルスに挑戦した。

## 解決すべき課題

- (1) 教室・大学の枠を超えたアクティブ・ラーニングの実践
- (2) 地域連携による信頼関係の構築と継続
- (3) 社会人基礎力（クリティカルシンキング・交渉学）を踏まえたコミュニケーション力の育成
- (4) 地域連携による全ステークホルダーの共感・信頼関係を通じた課題発見・解決への合意形成
- (5) アントレプレナーシップ



商品化ディスカッションの様子

試作品

試作品の試食

## 大学の役割

関西大学の教育カリキュラムである全学共通教養科目の授業の枠内で、高槻市土室（はむろ）地域に田畑を借り、米づくりを中心に、野菜の有機栽培等農作業を行っている。

この活動は、単なる田植え、草刈り、収穫の農作業体験ではなく、病害虫などのリスクマネジメント、流通、コンセプトメイキング、プロダクトデザインまでを一連の流れと捉え、生命を育てる責任感を養うことを目指すものである。育てた成果である農作物のブランディングは、流通も含めた地域社会の営みの仕組みを理解することにつながっている。

また、この活動はPBL（Project-Based Learning 課題解決型学習）と位置付けて展開している。地域の課題発見・解決を行うためには、地域に入り、一緒になって知識・知恵・経験・価値を共感し、信頼関係を築くことが不可欠であり、地域協働を通じて、教室や本からは発見できない地域課題の定義・解決を行っている。また、それはコミュニケーションによる信頼関係構築や、思いやりの大切さを学ぶことにもつながっている。

キャンパスを越えた地域社会全体をフィールドに、地域住民と同じ目線で共に考え、対話し、共感しながら協働するプロセスを地道に実践している。地域社会を構成する人たちが様々な世代の人達からなるように、様々な学部・1～4年生と様々な国からの留学生が自分たちが置かれた状況の中で課題を定義し、その解決策にむけて、知見を出し合い、話し合いにより合意形成に至るプロセスを学んでいる。

## 成果

- (1) 自然有機栽培で農作物を育てることの意義と、それを食すことの価値を理解
- (2) コミュニケーションによる信頼関係構築と思いやりの大切さの学習
- (3) 農作物を栽培しながら生命を育てる責任感の涵養
- (4) 育てた成果である有機農作物のブランディングによる地域社会の営みの仕組みに関する理解力向上
- (5) チームでのPBLによる主体的な学習姿勢の獲得
- (6) ブランド化した商品の流通の実践



東京センターで成果発表

## 研究者の紹介



教育推進部 教授  
山本 敏幸  
(やまもと としゆき)



国際部 教授  
池田 佳子  
(いけだ けいこ)



教育開発支援センター 研究員 /  
非常勤講師  
奥貴 麻紀  
(おくぬき まき)



国際部 教授  
Alexander Bennett  
(アレキサンダー・ベネット)